

中学校 第2学年 道德科 学習指導案

麗澤中学・高等学校 教諭 谷口 万里阿

1. 単元名 「人権の尊重」(教科書『生き方を見つめる』日本教科書株式会社)

2. 単元の目標

- 子どもの権利条約について知り、自分ごととして考えることができる。(知識・技能)
- 選ばれた子どもの権利条約にあえて順番をつけ「自分、自分のまわり、特定の他者」の3つの視点から考え、意見を伝えることができる。実地調査をもとに、他者の立場にたって物事を考え、自分の言葉で伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- 順番をつけた子どもの権利条約を他者と共有し、人権という観点から、今の学校生活について考え、意見をまとめることができる。(主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

「人権の尊重」をテーマに、狙いとする道徳的価値は、公正、公平である。中学2年という色々な悩みをかかえる時期に、自己や他者について、考えることが必要である。本教材は、人との違いをマイナスではなく、プラスにとらえることができる教材となっている。この教材を通して、生徒自らが自分や他者との違いを、個性と捉えるきっかけになることを期待している。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、男女問わず明るく、積極的に発言する生徒も多い。一方で、チームワークで活動することが苦手な生徒も中にはいる。学習に対しては、意欲的である。

(3) 指導観

本単元では、「人は違う。それでいい。そこから始まる。」(p. 69)を教材として取り上げ、その後フィールドワークをおこない、そこでの知見をもとに最終的にプレゼンテーションをおこなう。「みつめる」では、人はみんな同じではなく、その「違い」を十分いかすことが大事であることを理解することができる。教科書の読み物について、内容を確認した後で、「子どもの権利条約」(日本ユニセフ協会抄訳)のカードを提示し、さまざまな権利があることを知る。「しらべる」では、「子どもの権利条約」(日本ユニセフ協会抄訳)の中から選択した9つのカードを用いて、「自分、自分の周り、特定の他者」の3つの視点から、生徒が自分で考える。

「ふかめる」では、「優先順位が高い順に」カードを並び替えるダイヤモンド・アクティビティを実施し、グループワークをおこなう。このアクティビティを通して、他者との違い、考え方の相違を知り、またどの権利も順位づけができない大切なものであることを理解できる。本アクティビティによって、コミュニケーション能力のスキル向上を図ることもできる。最後に、「ひろげる」では、各班ダイヤモンド・アクティビティを共有し、発表することで、班ごとにできた表が異なることを生徒が認識する。教室内

で学んだことを踏まえて、自分たちが通っている学校地域についても調べる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性…自己と他者の考え方や感じ方、大事だとする価値が異なることをグループアクティビティによって理解すること。

公平性…並び替えたダイヤモンド・アクティビティに正解はなく、優先順位が低い権利が保障されていない人びとは孤立してしまうということ。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーションを行う力

子どもの権利条約のダイヤモンド・アクティビティを通して、グループワークをおこなうことで、自分が大事とする権利やそうではない権利について考え、意見交換できる。

他者と協力する態度

子どもの権利条約のダイヤモンド・アクティビティを通して、自分の権利に対する意見を伝えるだけではなく、他者の意見も聞くと同時に、班ごとに合意形成をとり、班で1つの意見をまとめる。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

人権・文化を尊重する

どんな人であれ、全員が安心して、安全に暮らせるように努めなくてはならない。

・達成が期待される SDGs

3 すべての人に健康と福祉を

5 ジェンダー平等を実現しよう

10 人や国の不平等をなくそう

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①教科書の内容について理解している。 ②子どもの権利条約についての知識について理解している。 ③学んだり、調べた情報をもとに、カードを用いたりしてまとめる技能を身に付けている。	①選ばれた子どもの権利条約にあえて順番をつけ、「自分、自分の周り、特定の他者」の3つの視点から考え、意見を伝えている。 ②フィールドワークでの現地調査をもとに、自分の言葉でまとめ、発表している。	①順番に並べた子どもの権利条約を他者と共有している。 ②人権についての考え方が他者と異なることを認識したうえで、どのような点が異なるのかをまとめている。 ③今後の学校生活に向けて、人権という観点から、意見をまとめている。

5. 単元の指導計画(全 6 時間)

次	主な学習活動	道徳学習への支援 ○教師からの発問	評価・備考
1	1 教科書を読む 「人は違う。それでいい」 ・みんな違うけどなかなか難しい。 ・違っても個性なんだ。 2 子どもの権利条約について取りあげ、内容を学ぶ。その後、アクティビティで使用する 9 つの権利について、アクティビティで使用する旨を伝える。 ・こんな権利があるのか。 ・守られていない権利って、意外にあるかも。 3 選ばれた 9 つの子どもの権利条約の中で、どのような点で権利が保障されていないのか、「自分、自分の周り、特定の他者」の 3 つの視点から、自分で考える。 ・なんで土曜日学校あるんですか。私たち人権守られていないです！ ・ニュースで見る世界のこと、この権利、守られていないなあ。	○各々様々なバックグラウンドや家族も異なる中で、みんなが平等に持っているものは何ですか。教科書を丸読みする。 まずは、40 個の子どもの権利条約について一つ一つ内容を確認し、理解を促す。クラスにいる生徒によっては、センシティブな内容のものもあるので、注意する。もしくは、一部抜粋という形にする。 9 つの権利条約を理解させ、活動の意義をつかませる。自分以外の視点に立つことで、周囲での困りごとについても考えさせる。	(ア)① (知識・技能) (ア)② (知識・技能) (イ)① (思・判・表)
2	4 9 つの子どもの権利条約を優先順位が高いと思う順に並べていく。ダイヤモンド・アクティビティを実施し、生徒は班でのグループワークをおこなう。 ・自分はこれが大事だと思う。 - でも、どれも大事・・・。	○人が生きていくうえで、大事だと思う順に並びかえてみてください。 ○大事だと思う基準は何ですか。なぜ大事だと思いますか。その順番で「みんなが」幸せになりますか。	(ウ)① (主体性) ESD 資質・能力 コミュニケーションを行う力

	5 班ごとにダイヤモンド・アクティビティを共有し、その理由も発表する。班ごとに異なる表について再度考える。 ・やっぱり、休みって大事！ ・国籍がない人っているんだね。 6 活動の振り返りをする Google form で振り返りアンケートを配信し、自分の意見を書き込む。	○班ごとに違いはあれど、すべての権利が保障される社会は実現可能でしょうか。 人権という概念について、再構築させる狙いがある。	(ウ)② (主体性) ESD 資質・能力 他者と協力する 態度 (ウ)③ (主体性)
3	7 柏市における子どもの権利条約保障についての実施調査 市役所や特定非営利活動法人 NPO 子どもすぺーす柏に問い合わせ、お話を伺う。また、班ごとに子どもの権利条約の中から 1 つ選び、どの程度保障されているのか、保障されていないのか、MAP を作ってみる。	○みんなが通っている柏市では子どもの権利条約がどの程度保障されているのでしょうか。	(ア)③ (知識・技能) (ウ)② (主体性)
4	8 柏市で留学している外国人に、子どもの権利条約に関してインタビューする 柏市内の大学に通う留学生にアポをとり、出身国での子どもの権利条約がどのように保障されているのか、またされていないのか、学びの一環として、学校で権利について学ぶのか等を英語でインタビューする。	○柏市で勉強している留学生(大学生)に、自国での子どもの権利条約について、班ごとにインタビューしてみましょう。	(ウ)② (主体性)
5	9 発表準備 実地調査に基づきどのようなテーマで発表するのかを班ごとに考える。	○「人権」という概念が変化したかどうか考えましょう。	
6	10 発表・まとめ 班ごとに自分たちで考えた「れいたく子どもの権利条約」についても考え、探究発表する。	○班ごとにメモをとりながら、聞いてください。	(イ)② (思・判・表) (ウ)③ (主体性)